



坂田 剛さん
環境学研究科
地球環境科学専攻
地球惑星ダイナミクス講座
博士課程前期課程1年

東日本大震災の ボランティアを体験して。

宮城県東南端の太平洋沿岸に位置する山元町^{やまもとちょう}。東北地方太平洋沖地震で震度6強の地震を観測し、その約1時間後に大津波に襲われた。津波は堤防を壊し、防風林の松林をのみ込み、沿岸の集落を壊滅させた。死者・行方不明者は690人にのぼった。

坂田さんが山元町にボランティアに行ったのは、昨年5月。仙台までバスで、そこから電車で、最後は地元NPOの迎いで現地入り。そこに広がる「見たことのない光景」に言葉を失った。津波から逃げ延びても、もう戻れる家はない。そういう人たちとともに、ヘド口を黙々と片づけた。ある家では、奥さんが、津波で行方不明になっているご主人の思い出を話してくれた。心が深く傷ついている人に対して、何を言えばいいのか、何ができるのか。何もできない自分を感じた。

坂田さんの専門は地震学。東北地方太平洋沖地震のような海溝型地震を研究している。「無力感に襲われました。地震の研究をしても何もできないって。だからとにかく現地に行って、体を動かすしかないと思ったんです」。その体験を経て、研究に対する姿勢も少し変わった。「今回は何もできなかった。でも自分は研究を続けて発展させたい。命を救う、防災という面につなげて地震学が貢献できればいい」。

もう一度、必ずボランティアに行くという坂田さん。いつもの暮らしが続く名古屋で、山元町を思い出すたびに、震災を忘れないように心に刻んでいる。



写真提供 / 山元町役場